土木工事標準積算基準書【土地改良編】の訂正について (通知)

土木工事標準積算基準書【土地改良編】令和6年7月の一部を別紙正誤表のとおり訂正しましたので、お知らせします。

# 土木工事標準積算基準書 [土地改良編] 正 誤 表

第Ⅱ編 土地改良標準歩掛

第7章 道路工 ①砂利舗装工

正

誤

#### 4-1-2 作業歩掛

敷均しにおける作業歩掛は、次表を標準とする。

表 4 2 作業計

(100m<sup>2</sup>当り)

	表 4.2 作来亚掛					(10	(0m- 当り)
	機 種	作	業 内 容	世話役 (人)	普通作 業員 (人)	敷均し機械 運転時間 (hr)	敷均し機械 運転日敷 (日)
	バックホウ	敷均し	舗装面仕上げ無し 舗装面仕上げ有り	0.20 0.32	0. 62	2. 5	-
		不陸整正 +敷均し	舗装面仕上げ無し 舗装面仕上げ有り	0, 20 0, 32	0. 96	3. 8	-
ľ	小型	敷均し	舗装面仕上げ無し 舗装面仕上げ有り	0. 22 0. 35	0. 69	-	0.4
	バックホウ	不陸整正 +敷均し	舗装面仕上げ無し 舗装面仕上げ有り	0. 22 0. 35	0. 99	-	0.9

#### 4-2 人力敷均し

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

ただし、敷砂利仕上がり厚さが 20cm 以下に適用する。

表 4.3 人力敷均し歩掛 (100m<sup>2</sup> 当り)

作業内容	普通作業員(人)
敷均し	1.0
不陸整正+敷均し	1.8

(注) 現地条件により仮置場からの小運搬作業が必要な場合は、別途計上する。

#### 4-3 舗装面仕上げ

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

#### 4-3-1 作業歩掛

舗装面仕上げの作業歩掛は、次表を標準とする。

#### 表 4.4 施工歩掛

(100m<sup>2</sup> 当り)

20 100 - 5 14		(100111 - //
機種	規 格	舗装面仕上げ 機械運転日数 (日)
振動ローラ 排出ガス対策型(第1次基準値)コンバインド型	3~4t	0. 2
振動ローラ ハンドガイド式	0.5~0.6t	0.3

- (注) 1. 舗装面仕上げは、横断勾配等を指定する場合、ほ場への路面排水等の流出防止、または飛散防止の必要がある場合、第三者の通行が見込まれる場合等の簡易な締固め作業であり、締固め密度を必要とする場合は、別途計上する。
  - 2. 振動ローラコンパインド型 3~4t は賃料とする。

#### 5. 敷砂利の使用量

敷砂利の使用量は、次式により算定する。

100m<sup>2</sup>当り敷砂利の使用量 (m<sup>3</sup>)

=100×敷砂利仕上がり厚さ (m) × (1+K)・・・・ (式 5.1)

K: 材料割增率(表 5.1)

#### 表 5.1 材料割增率 (K)

24 17 11 10 1 107						
歩 掛 区 分	材料割	材料割增率				
少街区万	舗装面仕上げ無し	舗装面仕上げ有り				
機械敷均し	0.16	0. 19				
人力敷均し	0.06	0.18				

#### 4-1-2 作業歩掛

敷均しにおける作業歩掛は、次表を標準とする。

表 4.2 作業歩掛

(100m<sup>2</sup>当り)

				, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		
機種	機 種 作	業 內 容	世話役 (人)	普通作 業員 (人)	敷均し機械 運転時間 (hr)	敷均し機械 運転日敷 (日)
	敷均し	舗装面仕上げ無し	0.22	0. 69	1. 9	_
バックホウ	30,000	舗装面仕上げ有り	0.35	0.03	1. 5	
7.574.9	不陸整正	舗装面仕上げ無し	0.22	0. 99	3. 1	-
	+敷均し	舗装面仕上げ有り	0.35			
	敷均し	舗装面仕上げ無し	0.22	0, 69	_	0.4
小型	放刷し	舗装面仕上げ有り	0.35	0.09		0.4
バックホウ	不陸整正	舗装面仕上げ無し	0.22	0, 99	_	0.9
	+敷均し	舗装面仕上げ有り	0.35	0. 99		0.9

(100m<sup>2</sup>当り)

#### 4-2 人力敷均し

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

ただし、敷砂利仕上がり厚さが 20cm 以下に適用する。

表 4.3 人力敷均し歩掛

作 業 内 容	普通作業員(人)
敷均し	1.0
不陸撃正+敷均し	1.8

(注) 現地条件により仮置場からの小運搬作業が必要な場合は、別途計上する。

#### 4-3 舗装面仕上げ

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

#### 4-3-1 作業歩掛

舗装面仕上げの作業歩掛は、次表を標準とする。

表 4.4 施工歩掛

(100m<sup>2</sup>当り)

機種	規 格	舗装面仕上げ 機械運転日数 (日)
振動ローラ 排出ガス対策型(第1次基準値)コンバインド型	3~4t	0. 2
振動ローラ ハンドガイド式	0.5~0.6t	0.3

(注) 1. 舗装面仕上げは、横断勾配等を指定する場合、ほ場への路面排水等の流出防止、または飛散防止の必要がある場合、第三者の通行が見込まれる場合等の簡易な締固め作業であり、締固め密度を必要とする場合は、別途計上する。

2. 接動ローラコンバインド型 3~4t は賃料とする。

#### 5. 敷砂利の使用量

敷砂利の使用量は、次式により算定する。

100m<sup>2</sup>当り敷砂利の使用量 (m<sup>3</sup>)

=100×敷砂利仕上がり厚さ (m) × (1+K)・・・・ (式 5.1)

K: 材料割增率(表 5.1)

#### 表 5.1 材料割增率 (K)

32 0.1 17 11 11 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						
歩 掛 区 分	材料割	増 率				
少 街 区 分	舗装面仕上げ無し	舗装面仕上げ有り				
機械敷均し	0.15	0. 16				
人力敷均し	0.06	0.18				

# 土木工事標準積算基準書 [土地改良編] 正 誤 表

第Ⅱ編 土地改良標準歩掛

第7章 道路工 ①砂利舗装工

正

誤

#### 6. 単価表

#### (1) 砂利館装工 100m<sup>2</sup> 当り単領表

		施工技	5掛コード	WR208010
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
世 話 役		人		表 4.2 (機械)
普 通 作 業 員		人		』 (機械)
普 通 作 業 員		人		表 4.3 (人力)
舖 設 材		m <sup>3</sup>		式 5.1 (機械)(人力)
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.28m³(平積 0.2m²)	h		表 4.2 (機械)
小型バックホウ運転	排出がス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.13m <sup>3</sup> (平積 0.10m <sup>3</sup> )	B		表 4.2 (機械)
振動ローラ	排出カ゚ス対策型(第1次基準値) コンバインド型 3~4 t	B		表 4.4 (機械) 必要に応じ計上
"	ハンドガイド式 0.5~0.6t	B		表 4.4(機械)(人力) 必要に応じ計上
21				

## (2)祭第ローラ 1日当り運転単価表 (機一28 参考)

		施工步	掛コード	WR208012
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
運転手 (特殊)		人	1	
軽 油		L	21	
振動ローラ賃料	排出がス対策型(第1次基準値) コンパインド型 3~4t	供用日	2.38	
計				

#### (3) 振動ローラ 1 日当り運転単価表 (機一31 参考)

		施工生	オコード	WR208013
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人	1	
軽 油		L	4.1	
振動ローラ賃料	ハンドガイド式 0.5~0.6t	供用日	1.59	
計				

#### 6. 単価表

#### (1) 砂利館装工 100m<sup>2</sup>当り単価表

		施工	リーに 供表	WR208010
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4.2 (機械)
普通作業員		人		" (機械)
普通作業員		人		表 4.3 (人力)
舖 設 材		m <sup>3</sup>		式 5.1 (機械)(人力)
バックホウ運転	排出が x対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.28㎡(平積 0.2㎡)	h		表 4.2 (機械)
小型バックホウ運転	排出がス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.13m <sup>3</sup> (平積 0.10m <sup>3</sup> )	B		表 4.2 (機械)
振動ローラ	排出がス対策型(第1次基準値) コンパインド型 3~4 t	B		表 4.4 (機械) 必要に応じ計上
"	ハンドガイド式 0.5~0.6t	B		表 4.4 (機械) (人力) 必要に応じ計上
計				

## (2)振路ローラ 1日当り運転単価表 (機一28 参考)

			施工が	対コード	WR208012
名	称	規 格	単位	数 量	摘 要
運転手 (特	殊)		人	1	
軽	油		L	13	
振動ローラ	貨料	排出がス対策型(第1次基準値) コンバインド型 3~4 t	供用日	1. 26	
計					

## (3) 振動ローラ 1 日当り運転単価表 (橋一23 参考)

			施工步	は掛コード	WR208013
名	称	規 格	単位	数 量	摘 要
特 殊	作業員		人	1	
軽	油		L	3	
振動ローラ損料		ハンドガイド式 0.5~0.6t	供用日	1.74	
計					

# 第7章 道路工

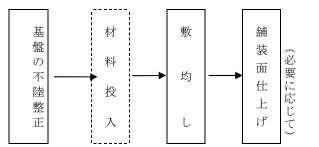
## ① 砂利舗装工

### 1. 適用範囲

本歩掛は、耕作道路等における砕石等の敷均し作業に適用する。

### 2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
  - 2. 路床の掘削作業は含まない

### 3. 歩掛の適用区分

歩掛の適用区分は、次表を標準とする。

表 3.1 適用歩掛区分

適用範囲	敷均し区分	舗装面仕上げ区分
敷均し幅 2.5m以上	バックホウ敷均し	振動ローラ コンバインド型
敷均し幅 2.0m以上 2.5m未満	小型バックホウ敷均し	
敷均し幅 2.0m未満	人力敷均し	振動ローラ ハンドガイド型

## 4. 作業歩掛

4-1 機械敷均し

敷砂利仕上がり厚さは、5cm以上20cm以下に適用する。

4-1-1 機種の選定

機種は、次表を標準とする。

表 4.1 適用機種

機	種	規格
バックホウ		排出ガス対策型(第2次基準値)
/\%2	クかり	クローラ型 山積 0.28m³(平積 0.2m³)
小刑が、	ベックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値)
小望ハッ		クローラ型 山積 0.13m³(平積 0.10m³)

### 4-1-2 作業歩掛

敷均しにおける作業歩掛は、次表を標準とする。

表 4.2 作業歩掛

(100m<sup>2</sup> 当り)

機種	作業内容	世話役(人)	普通作 業員	敷均し機械 運転時間	敷均し機械 運転日数	
				(人)	(hr)	(目)
バックホウ	敷均し	舗装面仕上げ無し	0.20	0.00	2. 5	-
	別切し	舗装面仕上げ有り	0.32	0. 62		
	不陸整正	舗装面仕上げ無し	0.20	0. 96	3.8	ı
	+敷均し	舗装面仕上げ有り	0.32			
小型	敷均し	舗装面仕上げ無し	0.22	0. 69	0.60	0.4
	放めし	舗装面仕上げ有り	0.35	0.09	1	0. 4
バックホウ	不陸整正	舗装面仕上げ無し	0.22	0.99 -		0.9
	+敷均し	舗装面仕上げ有り	0.35		_	

### 4-2 人力敷均し

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

ただし、敷砂利仕上がり厚さが 20cm 以下に適用する。

表 4.3 人力敷均し歩掛 (100 m<sup>2</sup> 当り)

作業内容	普通作業員(人)
敷均し	1.0
不陸整正+敷均し	1.8

(注) 現地条件により仮置場からの小運搬作業が必要な場合は、別途計上する。

### 4-3 舗装面仕上げ

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

### 4-3-1 作業歩掛

舗装面仕上げの作業歩掛は、次表を標準とする。

表 4.4 施工歩掛

(100m<sup>2</sup> 当り)

機種	規格	舗装面仕上げ 機械運転日数
		(日)
振動ローラ 排出ガス対策型(第1次基準値)コンバインド型	3∼4t	0.2
振動ローラ ハンドガイド式	0.5~0.6t	0.3

- (注) 1. 舗装面仕上げは、横断勾配等を指定する場合、ほ場への路面排水等の流出防止、または飛散 防止の必要がある場合、第三者の通行が見込まれる場合等の簡易な締固め作業であり、締固 め密度を必要とする場合は、別途計上する。
  - 2. 振動ローラコンバインド型 3~4t は賃料とする。

### 5. 敷砂利の使用量

敷砂利の使用量は、次式により算定する。

100m<sup>2</sup> 当り敷砂利の使用量(m<sup>3</sup>)

=100×敷砂利仕上がり厚さ (m) × (1+K)・・・・ (式 5.1)

K: 材料割増率(表 5.1)

表 5.1 材料割增率 (K)

歩 掛 区 分	材 料 割 増 率		
少 街 区 万	舗装面仕上げ無し	舗装面仕上げ有り	
機械敷均し	0. 16	0. 19	
人力敷均し	0.06	0. 18	

## 6. 単価表

## (1) 砂利舗装工 100m² 当り単価表

		施工歩掛コード		WR208010
名 称	規格	単位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4.2 (機械)
普 通 作 業 員		人		" (機械)
普 通 作 業 員		人		表 4.3 (人力)
舗 設 材		$\mathrm{m}^3$		式 5.1(機械)(人力)
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.28m³(平積 0.2m³)	h		表 4.2 (機械)
小型バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.13m³(平積 0.10m³)	П		表 4.2 (機械)
振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) コンバインド型 3~4 t	目		表 4.4 (機械) 必要に応じ計上
II	ハンドガイド式 0.5~0.6t	Ħ		表 4.4 (機械) (人力) 必要に応じ計上
計				

## (2)振動ローラ 1日当り運転単価表 (機-28参考)

			施工步	掛コード	WR208012
名	称	規格	単位	数 量	摘 要
運転手	(特殊)		人	1	
軽	油		L	21	
振動口	ーラ賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) コンバインド型 3~4 t	供用日	2. 38	
	計				

## (3)振動ローラ 1日当り運転単価表 (機-31参考)

		施工步	掛コード	WR208013
名 称	規格	単位	数量	摘 要
特 殊 作 業 員		人	1	
軽 油		L	4. 1	
振動ローラ賃料	ハンドガイド式 0.5~0.6t	供用日	1. 59	
計				